

東京病院ニュース

第16号

2006年10月1日発行



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ダイレクト・イン・ダイヤル 042 (491) 4134
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>



病院機能評価の認定証の獲得

東京病院は昨年5月に病院機能評価を受審していくつかの保留事項を指摘されましたが、これらを本年7月にクリアし、今般、認定施設としての登録を受けることができました。病院機能評価機構で求めているのは標準的な医療施設として必須の項目で、当院では一昨年から昨年5月までの1年間にわたって各職場でそれぞれの課題に取り組んでほぼこれらを満たし、いくつかの指摘事項を解決して今回の認定証獲得にこぎつけたものです。求められている事項は当然行われているべきことが大半ではありますが、一方では予算措置を伴うきびしい要求もあり、それなりに苦労がありました。今回の認定は全職員がそれぞれの課題に一つ一つ前向きに取り組んだ成果と喜んでいきます。

ちなみに、評価は「1. 病院組織の運営と地域における役割」、「2. 患者の権利と安全の確保」、「3. 療養環境と患者サービス」、「4. 診療の質の確保」、「5. 看護の適切な提供」、および「6. 病院運営管理の合理性」の6部門について行われます。審査官(サーベヤー)は機構本部の専任の方と他地域の病院長や看護部長などのベテラン医療関係者で、多くの経験をもとに鋭い観察力で不十分なところを指摘します。一方、審査の際にもらったお褒めの言葉は当院の環境と建物のすばらしさで、「全国的にみても三本の指にはいるでしょう」ということでした。このよ

うに好印象を持っていただいたのは結構なこと、実際、療養環境と就業環境の評価の点では高い評価を受けましたが、それで他の内容のチェックが緩くなるということはありません。いろいろと厳しい指摘もありました。そのなか診療内容や各種手順書の作成およびその適切な実施など基本的項目について十分な評価を貰うことができたのは、一昨年から昨年にかけての病院をあげての努力の積み重ねのおかげと思います。診療録管理士や臨床工学士の設置など予算措置を伴う課題の解決に約1年を要しましたが、まず、順調な経過と考えます。

さて、病院機能評価機構による認定は当院が病院として一定のレベルにあることを保証してくれますが、それは当院再スタートの一里塚にすぎません。国立病院機構傘下の医療機関のうち旧国立療養所は、従来からの「政策医療」と呼ばれた専門的医療から、一般医療とくに救急医療を含む地域医療にスタンスを移しつつあります。このような展開のなかで診療科の拡充の必要性が高まり、当院で地域ニーズに合わせた診療内容の展開をいっそうすすめていく必要があります。また、これを機会に、患者さんの立場に立つ医療を、言葉だけでなく実体として実践できるよう、いっそう精進したいと考えています。

(病院長 四元 秀毅)

1 病棟紹介

1病棟は、緩和ケア病棟として平成7年に開棟され11年が経過しました。

緩和ケア病棟というのは、最近テレビなどでも取り上げられて、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、これ以上、治療が難しくなったがんの方に対し、がんそのものの治療ではなく、ご本人の意思や希望を尊重しながら、身体や心の痛みを緩和し、ご本人やご家族の方々が、有意義にそして、穏やかな時間を過ごしていただくための病棟です。患者さまのペースに合わせて一日を過ごしていただくため、特別決まったスケジュールはありません。面会も24時間、いつでも可能です。



病室の窓から見える風景。



緩和ケア病棟は病院の敷地内にありますが、本館とは少し離れた1階にあります。病室は全て個室になっております。全てのお部屋から庭の景色を見ることができ、緑と土の香りや四季折々の変化を楽しむことができます。

また、毎月1回音楽ボランティアの方が行うミニコンサートや病棟スタッフが企画する季節の行事を取り入れた手作りのレクリエーションを行っています。このレクリエーションは、患者さま同士のコミュニケーションの場となったり、少しでもつらい時間を忘れていただいたり、また、季節を感じていただくことなどを目的としております。

そこで、最近行ったレクリエーションをご紹介します。

夏祭り・スイカ割り



8月は『夏祭り』を行いました。東京病院職員OBが盆踊りを踊り、看護師も浴衣を着ていつもと違う雰囲気に参加しました。患者さまも一緒に手を動かし踊りに参加したり、ご家族の方が踊りの輪に入りその姿を嬉しそうに眺めている様子などが見られました。スイカ割り、綿あめやヨーヨー釣りなども出店され、昔を懐かしく思う患者さまもおりました。

9月は『お月見ボーリング大会』と称し、お月見饅頭をいただきながら、ボーリングを行いました。「初めて、ボーリングをした」と楽しそうにお話される患者さまや「昔よくやった」と養った腕を振るわれる患者さまなどおりました。

10月は『秋の運動会』を開催いたしました。患者さま、スタッフを2チームにわけ玉入れ・パン食い競争・綱引きなどを行いました。看護師による応援団も加わり大盛況でした。これらのレクリエーションは患者さまに楽しんでいただくことを目的としておりますが、病棟スタッフも一緒に楽しいひと時を共有させていただいております。

(村山 朋美)



1病棟の外観。
奥にあるのが本館



お花見

夏祭り・盆踊り



運動会・玉入れ



運動会・応援団



転任のご挨拶

本10月に国立病院東京医療センターから転動してきました外来診療部長の茅野眞男です。伝統のあるこの東京病院はこ

こ数年間で、病棟改築、厚生労働省所管国立病院から独立行政法人に移行、そして難関の病院機能評価合格と、次々と機能を高めています。今回私に課せられた使命は、この東京病院の柱である呼吸器・消化器、そしてリハビリ・神経内科等の診療に加えて、心臓循環器を次の柱として発展させていくことです。

私は足利赤十字病院で20年間、次いで国立病院東京医療センターで10年間、循環器科を育ててきました。その経験を踏まえ、また10年先の将来を見据えて、この病院に地域の必要性にあった循環器科を育てていければと思っています。まずは今少し幅広い救急に対処できる体制が病院に求められており、

それには複数の医師による循環器科チーム作りが必要です。2007年1月には更に医師を増やして循環器専門医3人体制になります。来年3月には、今年度導入された高機能CTを使って外来でもできる冠脈造影検査を軌道に乗せ、来年秋にはカテーテルによる心筋梗塞・狭心症治療の開始を計画しています。

患者さんにとっては、病気になってから救急で慌てるのではお体の損害は大きいです。心臓成人病は動脈硬化が原因ですから、高血圧・高コレステロール血症・糖尿病といった冠疾患危険因子を外来で確実に抑えることで病気の発症は何倍も減ってきます。また高齢者に多い不整脈たる心房細動は脳卒中を起こしやすいのですが、その脳塞栓をおこさせないワーファリン内服治療もとても有効です。私は内科学会認定専門医として循環器専門医チームを率い、内科医としての幅広い視点にたつて当院で患者さんの治療に当たっていければと思います。どうぞよろしくご支援ください。

外来診療部長 茅野眞男

東京病院自衛消防隊員

平成18年7月28日に清瀬管内事業所による毎年恒例の自衛消防訓練審査会がありました。昨年より東京病院の北側駐車場にて行われることとなりました。今年は、男子隊1チーム、女子隊1チームが審査会に参加しました。

自衛消防訓練審査会の内容とは、火災発生時の初期消火、119番通報、非常放送、屋内消火栓による消火活動を迅速に且つ、きびきびとした態度であるかなどを審査するものです。

隊員たちは、審査会に向けて夏の暑さにも負けず何度も練習し、服装も本番用のユニホームに着替えて気合十分で練習しました。私も昨年より専属コーチ？として隊員達を見守っていました。最初は声を出すのも恥ずかしがってぎこちなかったけれど、昨年の優勝チームの姿を思い浮かべてはいろいろと隊員達にアドバイスをしたり、消防署の方に教えてもらったりと段々まとまってきました。最終の練習日にいい形に仕上がっており、もしかして優勝できるかも？いや優勝だな？と想像していま

した。

さて、いよいよ本番の日がやってきました。練習の成果もあり、自信に満ちた顔つきからは優勝はまかせとけ！！と聞こえてきそうでした。実際の動きを見てても、きりっとしており、手の指先、走る姿、敬礼時の姿勢、声の大きさどれをとってもすばらしく格好良かったです。私も隊員達と一緒にカメラを持って走り周り、格好いいシーンを撮ることに専念していました。結果は…優勝、準優勝に次ぐ「特A」を男女ともいただきました。なんで優勝じゃないんだろうかと思いましたが、私の心の中ではだんとう優勝でした。結果はあくまで他人が評価したものです。実際行った隊員が満足のいく行動がとればそれでいいのではないのでしょうか。でも本当にすばらしかったです。

最後に、毎日のように練習に励み、頑張った隊員のみなさん、本当にお疲れさまでした！！

職員係長 白石 邦夫



専門外来案内

専門外来名	診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください	
肝臓	月～金	体がだるい、黄疸や食欲の低下、健診で肝障害のある方、平成4年以前に輸血を受けた方。	
呼吸器関係外来	喘息	火(午後)	「喘鳴」「発作性の咳」が主な症状です。特に夜間から明け方の咳き込みは要注意です。
	禁煙(予約制)	木(午後)	タバコがどうしてもやめられない方。
	肺がん外来	木(午前)	紹介状をお持ちの方、セカンドオピニオンを希望される方。
	間質性肺炎	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
	非定型抗酸菌症	月(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
	気胸	火	突然の胸痛、息苦しさを感じます。
	いびきCOPD(睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
アスベスト外来(予約制)	木(午後)	アスベスト(石綿)を扱うお仕事をした方。アスベスト吸入による肺の病気について御心配な方(予約制です)	
手掌多汗症	金	今増加している疾病です。手のひら、腋、顔面の発汗が多い症状です。(汗で手が滑る、握手もできないこともあります。)	
ものわれ外来	水(午後)	最近ものわれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。(あらかじめ神経内科を受診して下さい。)	
高次脳機能外来	木(午後)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など(要神経内科外来受診)。	
糖尿病	木(午後)	のどがかわきやすい、体重が減ってきた。(無症状が多いので、健康診断で異常を指摘される場合が多い。)	
緩和ケア	木・金(午前)	末期の悪性腫瘍やエイズによる痛みやいろいろな症状でつらい思いをされている方。	

受付時間 8:30~11:00 診療時間 8:30~17:15

午後の専門外来は、12:30より受付

休診日 土・日・祝祭日および年末年始(12月29日から1月3日)

代表電話番号 042-491-2111

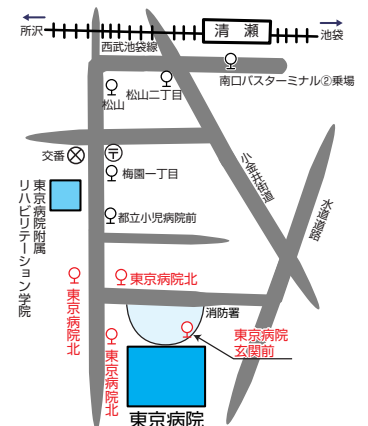
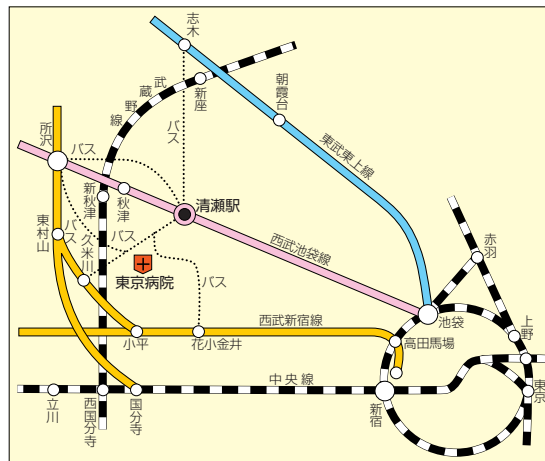
内線番号がおわかりの方は042-491-4134
(ダイレクト・イン・ダイヤル)をご利用下さい

医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合(医療機関)

外来診療の予約 : 診療依頼書をFAX送信して下さい FAX 042-491-2125 (8:30~15:30)
CT・MRI検査の申し込み : 放射線科へ直接お申し込みください TEL 042-491-3083 (8:30~17:15)

診療内容 病床数560床

- 呼吸器科
- 消化器科
- 循環器科
- リハビリテーション科
- 呼吸器外科
- 消化器外科
- 神経内科
- 内外科
- 放射線科
- 麻酔科
- 整形外科
- 緩和ケア科
- ICU(集中治療室)



交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅南口バス3番乗り場より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)

- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車で越しの際は正面よりお入り下さい。(駐車場265台)
30分以内 無料
31分~2時間 100円
以後1時間毎 100円
(20時15分~7時 1時間毎300円)